上
参山本町
へ13
2378
188

遠13
2378
188

雪麿作　國貞画

落椎姫ゞ名ゝよる

婦天
はた那
ひたふ
可能
ちくく
かゝ
ゑ

上之巻

天保七年丙申春發市

山本板

春雨の杉やくふ長日枝降ゝ已徒然の餘とあゝ野べ若草も伸ゝとする
頃ゝ毫筆の亮を採ゆげて風と虚書とを「叩薄紫なる駿河半
切鳥皮紙續へ書結ふ蕨も傍ら手ゞ不用お世話ゝ校合
添削ごうやら斯やら怪しげる物語めくめとゝ成ぬ原く所ゝ世ふあるゆき
彼落花洋ゞ種油菜の花やらぞも蝶の寄夜巡行燈よはるゝ新ぶん少く草の
三筋のふふ綴分それゞ三冊とゝ成はみ草蒲公英の色も黄表紙是ゞその
青ゝも四季草冊子の由縁ゝ雛草とゝ持遊ふるゝ娘御ゞ
ゞゝお求ゝ出覧のもゝ紙屑絶で身賣させ果ゝ山ゞの紙碁盤魂
紙ふゝらくもそれ槌の音ゝとゝ搆ふ。

天保七丙申初春新版

墨川亭雪麿記

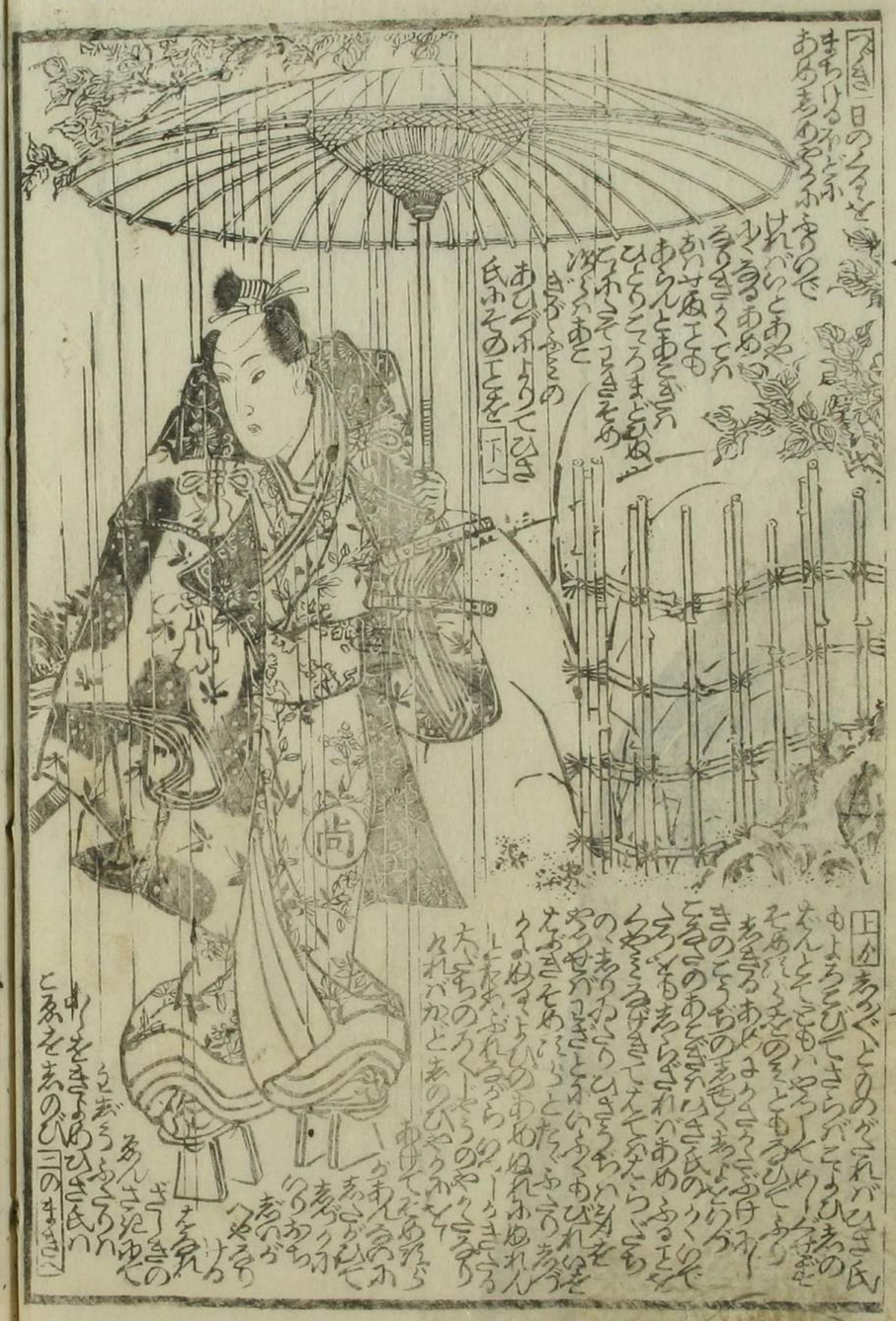
旗毛山左金吾尚氏

大舘の娘落椎

左の上の
ちっとせっかくりゆそう
よわりくくひき
右の上の
ちゃんとの助とそ

阿

落



尚

尚

つぎへ
つぎへ

柳亭種彦作 歌川國貞画 合巻摽題

御誂染遠山鹿子 六編四冊

乙月の舘の場より日岡峠の大尾まで手々出板の續狂言

天保丙申春新彫乙未の霜月より 豆相遠壽

時代違浄瑠璃合 風俗江湖傳

条く助碎て高野山とぐろ鎗の拵三教場と不破伴作と武術を爭ふ白井権八相摸入道の女創の犬をうち殺もの類それ〻こう合せて水滸伝のおもゝげ ふたぐる

三扇古渡佐羅維紗 全六冊

二編より書切りのさうし

汲上二種 天保丁酉新彫申冬より發市

芳町川岸あやぢ橋角 栄久堂 山本屋平吉梓

雪唐作國貞画
中

雪麿作
國貞画

笠姫が石ずり

山女平吉板
全部六冊

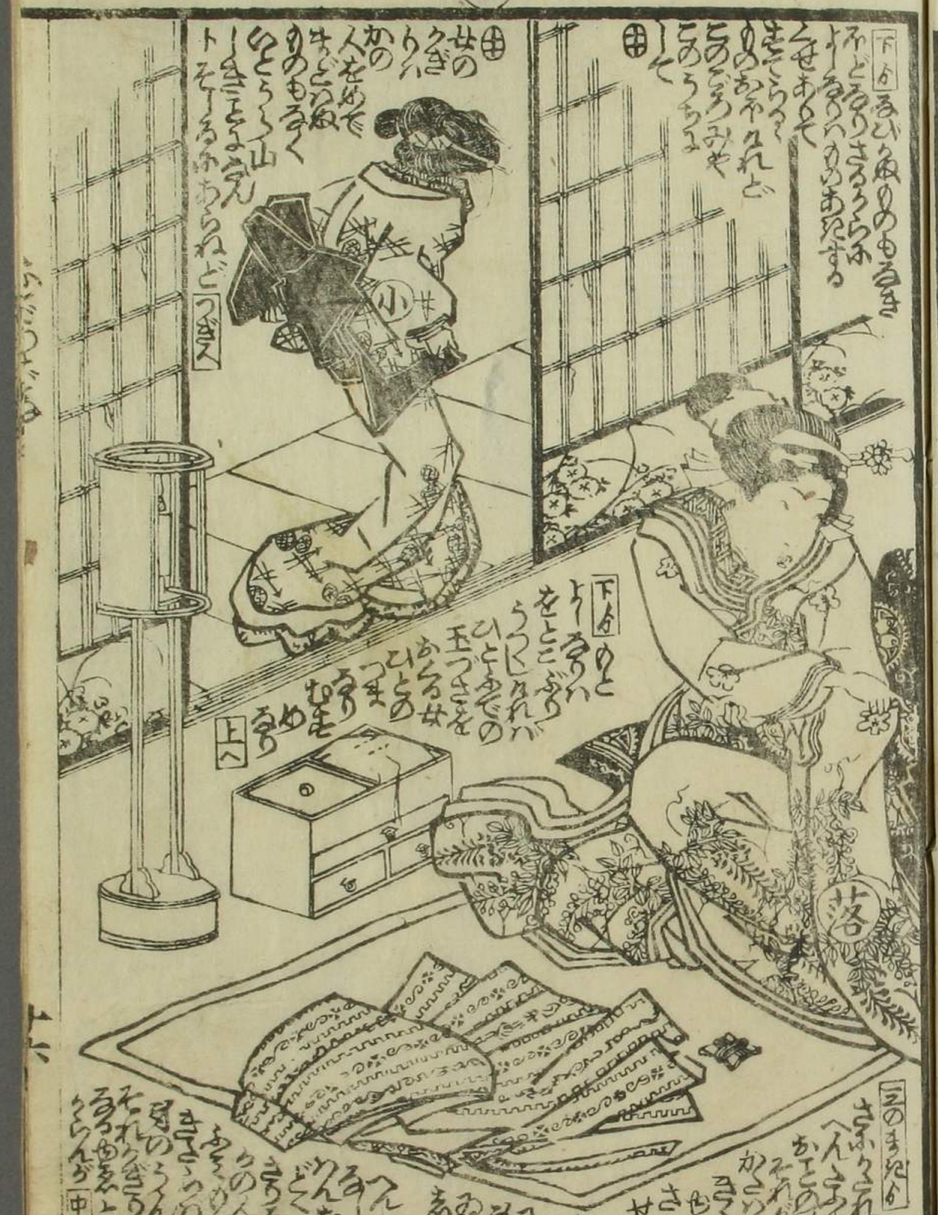
尚
落

阿
吉

阿
落
尚

小

小
落
尚


尚
落

尚

比

北
阿
落

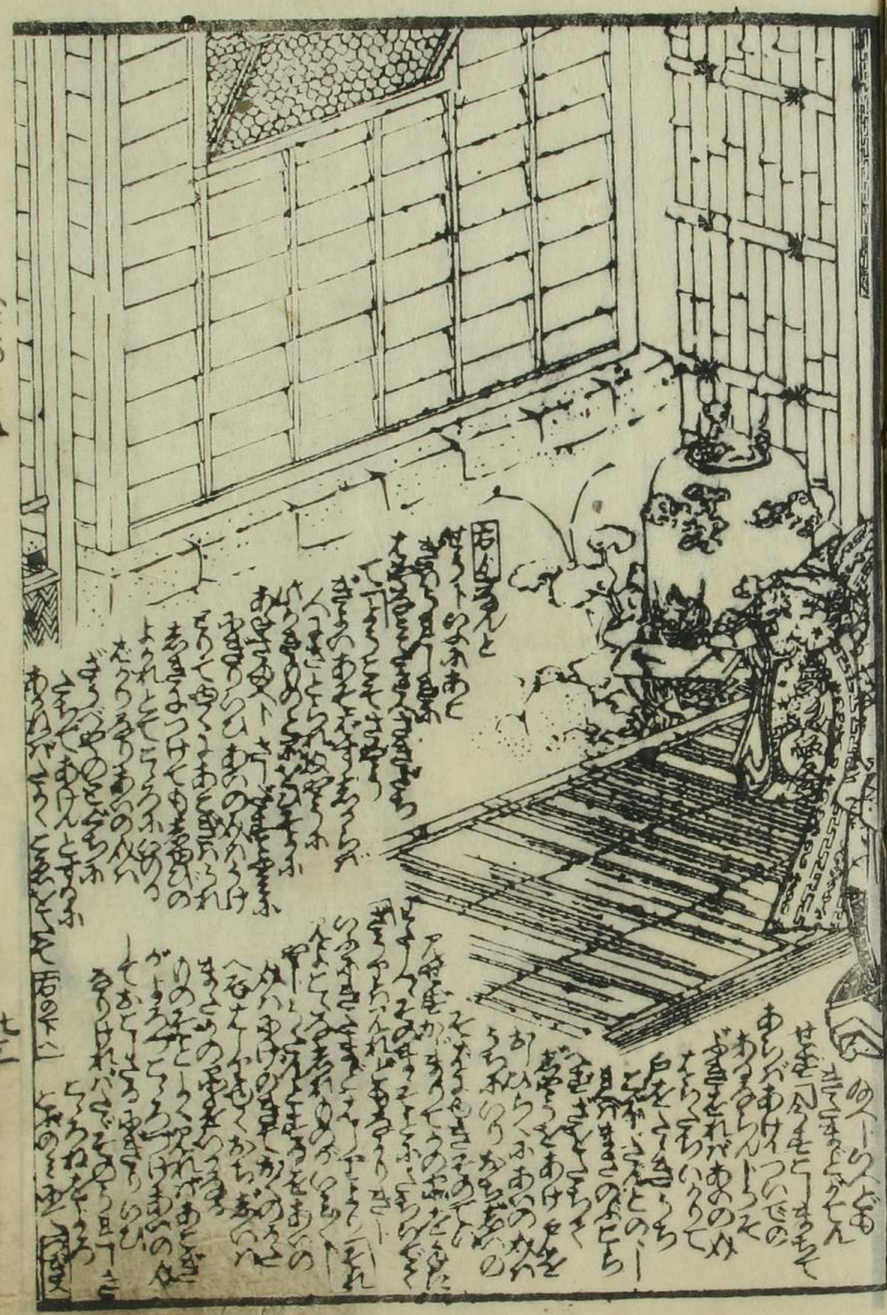
大口
恵津

天保乙未
盆春刊行
榮久堂梓
下

腰元小鮎の名ふよる
國貞

五
河

室町殿の花の御所
藏人元重猿樂をつとむ
大舘の四賀のむまめけんぶつの見物
此さうしは口絵とするめの一丁のうれたる又あふ中後一えをあらえをあらえをあり



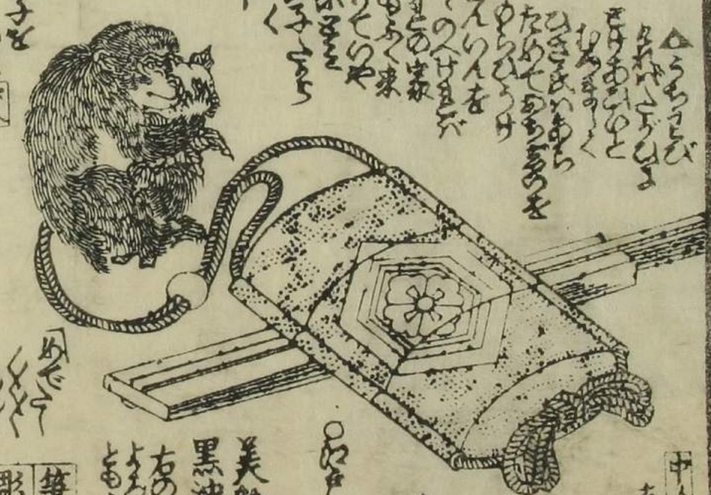
①かどのきろばをあひてどうにゆめのくえれが

染
阿

貂

尚
落

香蝶樓國貞画　墨川亭雪麿作



筆工谷金川
彫工種丸

美艶仙女香一包四十
黒油美玉香八文
坂本氏制製

天保七申春新刻目録

東海道五拾三驛　前編　後編

鶴屋南北作　毎編四冊　歌川國芳画

千本櫻後日仇討　全四冊

墨川亭雪麿作　五風亭貞虎画

安達原筆操　全二冊

式亭小三馬作　香蝶樓國貞画

菊壽童三編盃　全六冊

山東滝京山作　香蝶樓國貞画

操競優軍配　全六冊

浦里姫　白妙姫　式亭小三馬作　五雲亭貞秀画

夜討曽我入彩製　後編六冊

三亭春馬作　香蝶樓國貞画

玉筆長日樂書　全六冊

墨川亭雪麿作　香蝶樓國貞画

美艶仙女香　京橋　坂本氏
黒神髪香　八十八文

灸　地本錦繪

問屋榮久堂　芳町親仁橋角　山本平吉板